

澁川市議会 会派 きぼう・政策調査会 視察研修報告

平成27年 12月 22日

政策調査会 代表 中澤 広行

きぼう代表 望月 昭治

議長 石倉 一夫

副議長 須田 勝

1.視察日程: 平成27年12月16日～17日

2.視察場所: 富山県 氷見市・砺波市

3.視察議員: 議長 石倉 一夫
副議長 須田 勝
きぼう 望月 昭治・星野 安久
政策調査会 中澤 広行・細谷 浩・山内 崇仁・池田 祐輔

4.視察概要: 氷見市出身の実業家・浅野総一郎の縁を通じた氷見市と本市では、しづかわ商工会主催による交流会「寒ブリ大会」を毎年開催している。また砺波市とも浅野総一郎の縁により、砺波市庄川流域にて毎年行われている庄川水まつりのメイン行事「流木乗り選手権」を、本年8月に伊香保温泉にて開催する交流が始まった。

北陸新幹線の長野一金沢間が本年3月に開通し交通利便性が向上したことにより、相互において交流の拡大が見込まれる分野、また学校をリノベーションし市役所へ改装した氷見市の先進的な取組について調査した。

5.視察報告:

(1)氷見市 (平成27年12月16日)

氷見市は北緯36度51分24秒東経136度58分23秒に位置し、富山県の西北端にある面積230.56km²・人口47,967人(推計人口,平成27年12月1日現在)の市である。主な産業として漁業が挙げられる。交流会でも振舞われた寒ブリが有名であり、豊漁の年であれば11月中旬に旬を告げる「ひみ寒ブリ開始宣言」が発表されるが、本年は不良が続き視察調査日現在では発表されていない。

①本市との交流及び他市交流

浅野総一郎ゆかりの地である川崎市・横浜市及び本市と都市間交流を行っており、この3市と国内友好都市の市民が氷見市へ宿泊した際に、地元特産品のプレゼントを実施するなどの事業を公民連携で行い、民間旅客会社と提携し関東圏より北陸新幹線を利用した誘客事業に積極的である。



氷見市位置図



都市間交流の深化を図る氷見市と川崎市では11月25日に市長懇談会を開催し、連携・協力による新しい価値の創造とともに、共通課題の解消に向けた取組など4つの連携を合意した。

I.起業支援

川崎市で開催されている「かわさき企業家オーディション」への氷見市若手経営者の参加による両市の資源を生かしたビジネスチャンスの創出

II.浅野翁の偉業の顕彰

浅野翁の生涯のテレビドラマ化についての可能性を探る活動の推進及び関連企業等への参加呼掛け

III.スポーツ交流

慢性的に練習場が不足している川崎市の少年サッカークラブや学童野球チームの合宿の氷見市への誘致と交流促進

IV.文化交流

世界のマエストロが認める「ミュージザ川崎シンフォニーホール」のノウハウを学ぶための派遣研修の実施

本市とは商工会主催の「寒ブリ大会」や佐久発電所の銅像設置事業などの民間交流が行われているが、行政間での連携は鮮少である。



氷見市職員より都市間交流及び交流の歩みについて説明を受ける

②市役所新庁舎

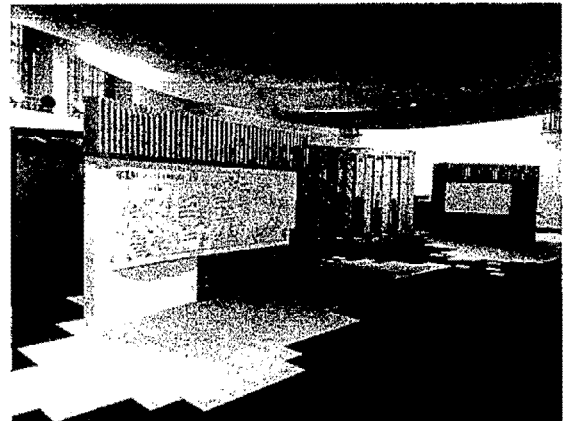
氷見市は平成26年5月に新たな市役所を開庁した。旧庁舎は平成24年の調査で耐震基準を満たさず、津波浸水想定区域内にあることから移転を検討。新庁舎は統合により廃校となった元県立高校の体育館2棟と、校舎の一部を再利用した全国的に珍しい試みである。改装費は約19億4千万円だが、津波対策で移転が必要な防災拠点施設を対象とした国の補助を利用した為、市の実質負担は約8億円となる。



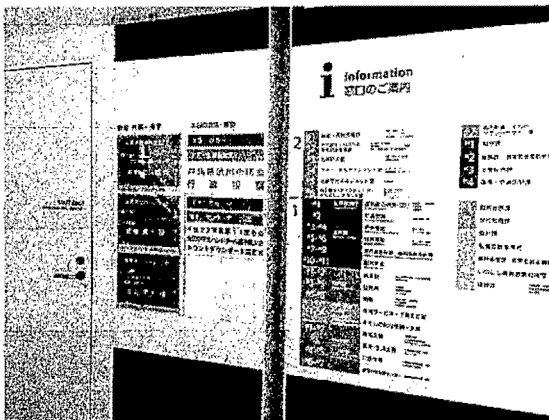
見える化の進められた会議室にて氷見市・本川市長より庁舎の概要説明



間仕切りとガラスのみの市長室



庁舎2階にはいたる所にホワイトボードが設置されている



1階部分はワンストップの窓口サービス

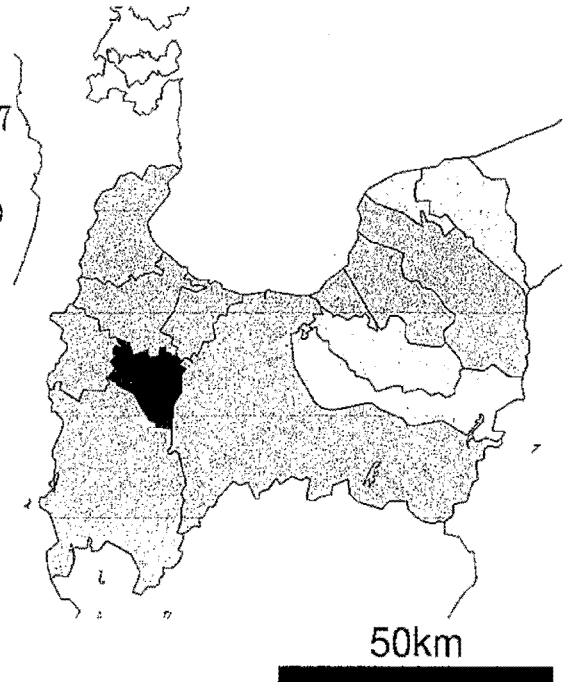


公共施設の老朽化と予算不足に悩む地方自治体のモデルケースとして、多くの自治体などから連日視察を受け入れている。開庁日の14時から職員が市民や観光で訪れた方を対象に庁内を案内するサービスも実施。

(2) 砺波市（平成27年12月17日）

砺波市は北緯36度38分50.9秒東経136度57分43.7秒に位置し、富山県の西部にある面積127.03km²・人口48,781人(推計人口,平成27年12月1日現在)の市である。砺波平野の中心に位置し、北陸自動車道砺波ICが立地することから、大型の郊外型商業施設が多い。また、自動車による交通利便性の高さから工場も多く、北陸～東海地方への中継輸送拠点も見受けられる。農家が田園に点々と散在する散居村の美しい風景や庄川峡、庄川温泉郷などの観光資源も多く、チューリップの球根の生産も品種の多さと高品質なことでも有名。

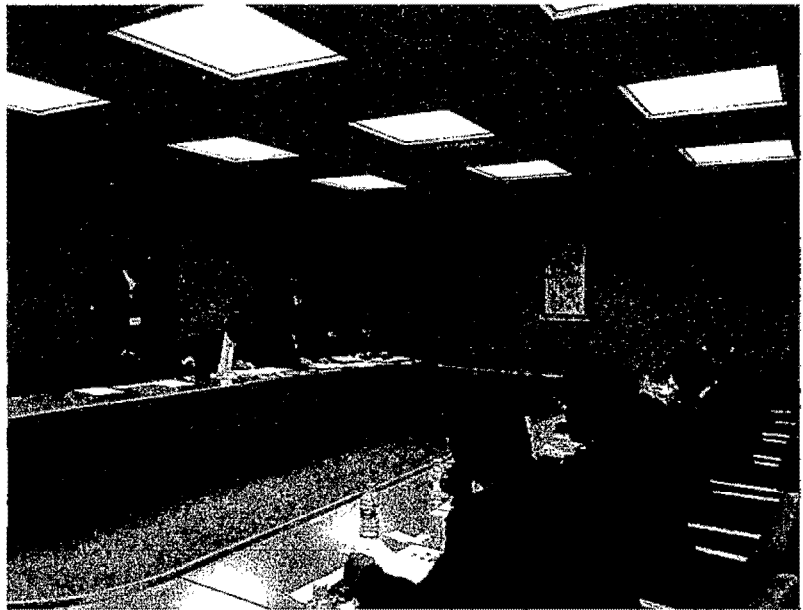
平成16年11月に砺波市と庄川町が合併し現在の砺波市となった。



砺波市位置図

①交流の経緯及び交流の今後

砺波市庄川町に浅野総一郎がダムを建設したことから縁となり本市観光協会と交流がはじまる。本年8月には砺波市よりプールと丸太を輸送し、伊香保にて「流木乗り選手権」が開催された。砺波市では今年で31回を重ねる大会だが、プールを輸送し他地域で行うのは初めてのこと。毎年4月～5月にかけて行われる「となみチューリップフェア」には約30万人の来場者が見込まれ、砺波市観光協会では今後の本市との交流として、本市観光協会をこのイベントに招待するなども行い、渋川市のプロモーション機会の創出、また、互いに温泉地を有する都市として相互交流の拡大を模索。富山県西部6市とともに渋川市をはじめ横浜市、川崎市、いわき市との交流人口の拡大を図り更に商工業・観光振興の発展に繋がることを期待。



砺波市・村岡議長より歓迎のあいさつ

6. 視察感想

浅野総一郎の縁で民間からの交流が深められている両市であるが、交流の今後について、どのようなあり方が必要か行政の立場として深く検討しており、北陸新幹線の金沢までの延伸開通に伴い関東圏からの誘客はもちろん、特産品のブランド化や人材の育成など市全体の商品力の向上と拡販に尽力している。今後の本市との交流に注目していきたい。

氷見市役所新庁舎は補強・新築以外の選択肢として大いに研究が必要と考える。